

## 研究の背景・目的

絶滅危惧IB類のレブンアツモリソウの保護ばかりでは礼文島の経済が成り立たちません。とって、経済のみ重視だとレブンアツモリソウが荒らされて絶滅しかねません。礼文島の自然は「見えない森林」であることを観光客に認識してもらい、協力し合って皆で守る必要があります。それを推進するために、経済面について観光客がレブンアツモリソウを求めていること、レブンアツモリソウに経済効果があることを実証します。この結果をもとに、観光を推進しながらレブンアツモリソウを守るという共生の重要性を提言します。

## 研究の内容・成果

データ分析でレブンアツモリソウの数が増えれば観光客が増える、減れば減るという相関関係を得ました。次に、レブンアツモリソウ増加の経済効果をシミュレーションしました。その見学を目的とした観光客数が10%増えると税収は5億2千万円増えます(北海道)。

そして、礼文島観光客へのアンケートで礼文島で気に入った花について聞いたところ、第1位はレブンアツモリソウでした(平成30年6月546人)。最後に全国の一般の人に礼文島とレブンアツモリソウについての印象を調査しました(平成30年10月300名。花の写真も掲載)。花を知っているという認知度は6分の1でした。それを見学の目的にしたいか?の問いにはどちらともいえないと答えた人が一番多かったので、もっとレブンアツモリソウの魅力を宣伝していくべきでしょう。

## 今後の展開

本研究から次の好循環を生み出す仕組みがわかりました。「レブンアツモリソウを増やす→観光客が増える→経済効果が発生する→その収入の一部でレブンアツモリソウを保護する・人々の意識を高める→レブンアツモリソウを増やす→・・・(以下同様)・・・」しかし、実際の社会でこれがスムーズにいけば何の苦勞もありません。この矢印のいたるところで思わぬ障害が立ちはだかます。今後は、この矢印の流れの障害とそれを取り除く方法について研究し、「木のない森を守る」努力をしていきたいと考えています。